月報
岡崎の教育

平成25年4月1日
4月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
岡崎市長　内田　康宏氏
この人に聞く …… 2
岡崎子どもの本研究会　会員　鎰廣みどり氏
羅針盤 …… 2
連尺小学校長　太田　恭子
ふれあい …… 3
岩津小　原田　康成
特　集 …… 4
平成25年度岡崎の教育
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー …… 8
校舎の増改築（昭和53年）
この本を …… 8

教育随想

子供たちに夢のある未来を

岡崎市長
内田　康宏　氏

新年度が始まりました。桜の花が咲きほころぶ中、真新しいランドセルや制服を身に着けた新入生が、期待と不安に胸を膨らませ、新生活をスタートさせます。私も新年度に臨み、新たな気概をもって、この一年を実り多い年にしたいと思います。

さて、都市化、核家族化及び地域における地縁的つながりの希薄化により、子供たちを取り巻く環境は著しく変化しています。このような社会情勢は、必ずしも子供たちの健全育成にプラスに働くばかりではありません。

子供の多様な個性を伸ばすためには、子供の立場から物事を発想する「豊かな環境」を作っていかなければなりません。社会全体が、それぞれの立場で、精一杯の努力をし、子供たちの無限の可能性を愛情豊かに育んでいくことが求められています。

私自身を顧みれば、日本の高度経済成長と歩みを同じにして、幼少期から学生時代を過ごしました。町内一と自負するワンパク坊主が大学卒業と同時に単身米国に渡り、未知の世界で戸惑いながらも夢と希望にあふれた時期を過ごしたことを思い起こします。この頃の経験が今日につながっていると思っていますが、それも周りの多くの方の支えがあってのことと深く感謝しています。

そのご恩に報いるためにも、今度は私が、夢に向かって進んでいく子供たちを全力で応援してまいります。

今日、翔南中学校が、市内二十番目の中学校として開校します。ここは、エコスクールパイロット・モデル事業として認定され、太陽光発電システムを始めとする最新設備など、学びの場として素晴らしい環境が整っています。新しい制服の襟には、若葉の刺繍が施されていると伺いました。子供たちが、この若葉のように芽吹き、多くのことを吸収して、力強く成長してくれることを、心から願っています。

私はかねてから、教育は国の礎であると考えています。「次の新しい岡崎」の創造を進め、子供たちが、岡崎に生まれ育ったことや岡崎で学べたことを誇りに思い、心豊かに人生を歩んでいけるよう、更なる教育環境の充実に努めてまいります。

（うちだ　やすひろ）

物語を伝えたい

岡崎子どもの本研究会　会員
鎰廣みどり　氏

「幼稚園では誰ともしゃべれなくて、いつも片隅でぽつんとしているような子だったんです。唯一、先生に絵本を読んでもらうときは、みんなと一緒にお話を聞いているという感じがして幸せでした。」

そのときの気持ちが忘れられず、自分と同じような子がいるかもしれないという思いが、鎰廣さんを読み聞かせへと向かわせた。

「誰も信じてくれないのですけど、子供のころは、内向的でおとなしすぎるなんて通知表に書かれていたんですよ。」

確かに、今の快活な鎰廣さんからは想像できない。昨年度まで美川中学校の図書館支援員として勤務しながら、手作り絵本の会「金のりんご」、岡崎子どもの本研究会、ストーリーテリングの会と幅広い活動を行っていた。勤務校はもちろん、市内の小中学校、特別支援学校、特別養護老人ホームなどで読み聞かせを行ったり、手作り絵本の講師を務めたりと精力的に活動してきた。また、平成二十三・四年度には「岡崎図書館まつり」の実行委員長も務めた。

「子供のころ、家庭で本に触れる機会は少ない方だったし、それほど読書家でもありませんでした。でも物語の楽しさはちゃんと分かっていたのでしょうね。内向的で自己表現できなかった私は、本の世界があったことで救われたという思いがあります。病気で自宅療養していたときも、『おはなしでてこい』という番組で、女優さんが語る物語を聞くのが大好きでした。子供のころに物語があったというのが、自分の核になっていますね。」

子供たちには、とにかく多くの物語を聞いたり読んだりしてほしいと鎰廣さんは言う。

「物語では、面白い筋立ての中でいろいろなことが起こりますよね。そして、主人公と一緒に冒険したり、困難を乗り越えたりする経験ができます。それは、自分自身の成長の助けになるんですね。子供が心の中に物語をもつことは、生きる力になるという思いがあるのです。」

だからこそ、小中学校での読み聞かせにこだわる。

「学校は、全員が平等に聞ける場なのです。本に関心のない子でも、親が熱心でない子でも、みんな同じように聞ける場で読むことに意味があると思いました。幼稚園の先生が読んでくれなかったら、私は、あの楽しさを知らなかったと思うので、私もそういう場で読みたいと思っていました。」

給食時間の放送で、昔話を語る試みをしたとき、普段は素気ない中学生の中に「あれ、すごく面白かったね」と声を掛けてくる子がいた。そういう反応がうれしくて、もっと面白いお話を語ってあげようという気持ちになったそうだ。

放送時のタイトルコールは『みどりの、お話よりどりみどり』。楽しくてたまらないといった表情で、本との関わりを語る鎰廣さんからは、どんなお話でも飛び出してきそうだ。これからも子供たちの心の支えとなる物語の種を、たくさんまいてくれることだろう。

（氏　名　かぎひろ　みどり
生年月日　昭和三十七年八月六日
住　所　岡崎市柱町）

誇るべき岡崎の教育

連尺小学校長　**太田　恭子**

平成二十五年度のスタートにあたり、岡崎の教育について、少し振り返ってみたい。

ここ数年、岡崎の教育は名実ともに質の向上を図った。三河の岡崎、愛知の岡崎から日本の岡崎へと飛躍した。

昨年秋、東海北陸小学校長会研究協議会の場で、私は本市の学校教育の現状について、ESDの視点に沿った三本柱「英語教育・環境教育・岡崎の心の醸成」の取組を紹介してみた。だが、他県・他市の先生は、「それ何」「どこの学校もやってるの」と、不可思議な顔をしながら「私の市では学力調査の点数をあげることを強いられていて……」と、ぼやいているだけだった。

翌日、隣市の友人から電話があって、「岡崎はすごいね。どこの学校も同じように英語も環境も……やれる

「ね」はやさしい子

岩津小　原田　康成

四月、学級開きのときから、担任としての力のなさを感じずにはいられなかった。「あの子が変なこと言ってくる」と知らせにくる不安げな女の子。「あの子が急に背中を押してきた」と泣きながら訴えに来る男の子。その指さす方を見れば、いつもAがいた。こんなことが毎日のように続いた。どうすればAの行動が収まるのかと模索を続けてきたが、こちらの思いは空回りするばかりであった。叱られてばかりの日々のためか、目尻もつり上がり、「学校なんて、なくなればいいのに」と、ことあるごとに言う。

そんなある日のこと、Aが頭痛を訴えて、午前中のうちに早退した。そして、翌日は欠席。本学級の「お休みが長引いたら手紙を書く」の原則にのっとり、二十九人みんなでAに手紙を書いた。手紙の内容は、「いないとさみしいよ。早く元気になってね」「学校に来て、また一緒に遊ぼうね」というかわいらしいものであった。

Aは、翌日も休んだが、教室に届けられた連絡帳には、Aからの手紙が添えられていた。「たかいねつがでて、くるしいけど、はやくげんきになってがっこうにいくね。みんなありがとう。まっててね」と、いつもよりやさしげな字体で書かれていた。上部には、ベッドに横たわる姿が描かれ、目からは涙も落ちていた。思いがけない手紙に、学級の子供たちは感激した。

学級がスタートした当初から、友達に嫌われていると思い込んでいたA。ところが、手紙を通してみんなから優しい言葉を掛けてもらい、とがった心の先が少しだけ丸くなったのかもしれない。その日を境に、強い振舞いや荒い言葉遣いは減少した。後日の個人懇談会で、みんなからの手紙は、Aの大切な宝物になったと母親から聞いた。

よい方向に転がり出すと、それは加速していく。みんなの役に立とうと、帰りの会で水筒を配って歩くA。放課にドッジボールをすれば、近くの子や女の子に手加減をして投げるA。周りが優しくしてくれたから、自分もそうしようと心掛けているのが分かる。そして「ありがとう」と言われたときのAの笑顔……。そんなAの姿に気付かされた。そういえば彼に対して褒めること、認めることをいつの間にか怠っていた。その日から私自身の心掛けを変えた。効果はてきめんであった。クラスの雰囲気もより明るくなり、Aに対する不満や苦情は、ほとんど聞かなくなった。

三月。卒業を祝う会で、呼びかけを行うことになった。教室で担当を決める際、「学校が大好きになりました」の一文に真っ先に立候補したのは、Aであった。「学校なんて……」とつぶやいていたAの鋭かった目つきは、いつの間にか、子供らしい穏やかなものへと変わっていた。

んだね。私はESDという言葉についていけず、無言だったの。恥ずかしかったわ」と、率直な感想を伝えてくれて、安堵したのを思い出す。

本宿小学校は、小学校英語の岡崎モデルとして毎年全国発表をする。新香山中学校は環境教育の岡崎カリキュラムを中核としてESDの全国発表をした。しかし、両校はあくまで岡崎の代表として発表したのであり、自校も含め、本市はどこの学校でも同等の教育活動ができる。また、おかざきの心の歌「夢ふくらませ」「夢受け継いで」「夢おどる」は、カラオケ全国配信で、今や大人も口ずさんでいると聞く。

教育は百年の計である。先輩教師が築いてくれたよき伝統を、私たちは確実に身につけ受け継いできた。現状に甘んずることなく、向上心を抱き、挑戦してやまないのである。

私は今一度、先輩の教えを紐解き、生活の基礎となる小学校教育を見つめ直して、地に足をつけた授業研究を推進したいと考えている。教師の本分は授業。授業が分かれば学校は楽しいのである。

「教育は、教師その人にあり」

先人の残したこの名言を念頭に置きながら、歩んでいきたい。

▲ 確かな学力　―大門小―

岡崎の教師の覚悟

日本には、四季折々に様々な姿を見せる豊かな自然がある。永い年月をかけ育んできた独自の文化がある。そして、決して絶えることのない資源がある。それは、日本の自然や文化から生まれた「人の力」である。日本人の持つ「知恵と心」、それを育んできた「教育」こそが、世界に誇るべき、持続発展可能な社会を根本から支えることのできる資源である。

岡崎の沃野を潤し、流れる矢作川。三百年の平和の礎を築いた家康の心。「つとめてやむな」と努力の大切さを教えてくれる光太郎。岡崎には、日本のもつ豊かな自然と伝統のある歴史、そして「知恵と心」が確かにある。

休み時間に子供と遊ぶ先生。子供の日記を読み、朱を入れる先生。自主サークルで研鑽を積む先生。岡崎の教師は、目の前の子供の心に寄り添い、子供の姿から実践研究を積み、読書や本物から学ぶことで、指導性や専門性、人間性を高めてきた。岡崎の教育が、評価を高めたとすれば、それは、全て岡崎の教師の力である。

教育とは、崇高で素晴らしいものである。岡崎の教師であるならば、岡崎の歴史と伝統を誇りに感じ、先さ輩教師の姿を追いつつ、新しいことに敢然と挑戦する教師でありたい。そして、子供たちの幸福をひたすら願い、ひた向きに努力する「覚悟」のある教師でなければならない。

岡崎の教育の視点

教育の目的は、人格の完成にある。そして、学校教育に求められているものは、幼児・児童・生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。

そこで、各園・学校においては、基礎的、基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、公共の精神を尊び、幼児・児童・生徒の個性を伸ばす教育を展開することが大切である。

そのために園・学校や地域の実態に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる、安全で魅力ある園・学校づくりを目指すこととする。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全園・全校が一枚岩の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた教師と幼児・児童・生徒の人間関係を築き、家庭と地域と学校とが協働して信頼される教育の創造に努める。

そして、昨年度に引き続き、次のことを指導の重点とし、さらなる教育の充実を図ることとする。

◎　学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進

◎　命の大切さを自覚し、「ふるさ

▶ふるさとを愛する心　―大樹寺小―

▶健やかな体
―第55回岡崎市中学校総合体育大会―

とを愛する心」を育む教育の推進

◎自らを律し、たくましく生きる「健やかな体」を育む教育の推進

岡崎の教育の挑戦

今、世界では、環境・経済・社会などの分野で、深刻で複雑な問題が発生している。それをどのように解決し、社会はどこに進むべきかという問いに対する答えが「持続可能な社会」であり、岡崎市では、その実現に向け、ＥＳＤ（持続発展可能教育）に挑戦している。

持続発展可能な社会を築く力とは、世界に通用する基礎的基本的な知識・技能や、あらゆる変化に対応するために、多様性のある見方・考え方、豊かな心を身に付けることである。

（一）英語教育の充実

本市は、文部科学省より「教育課程特例校」の指定を受け、英語教育の充実を図ってきた。それは、世界で最も多くの人々が使う英語を身に付けることが、将来、世界の多様な立場や世代の人々と関わり、持続可能な社会について考え、行動できる子供を育むことができると考えるからである。

そのために、これまで自作の教材を開発し、独自の方法を実施してきた。小学校一年生で英語を聴く耳を鍛えることから始め、小中一貫した九年間の「英語活動カリキュラム」を通して、中学校卒業時には、英語で世界に発信できる子供を目指すこととした。

本年度も、小学校では、自作ＤＶＤ教材（Okazaki Kid's English）を確実に実施して聞く力を伸ばし、中学校では、自作テキスト教材（Our City OKAZAKI）を積極的に活用し、話す力を伸ばす。

（二）環境教育の充実

二十一世紀は環境の世紀である。人類はすでに環境問題に直面し、世界が協調して解決を図らなければならない状況となっている。

そこで、本市では、一昨年度から独自に作成した「岡崎市環境学習プログラム」を実施している。義務教育九年間を通して教育課程を系統的に組み立て、一貫した環境学習を行う全国的にも例のない取組である。地球温暖化や環境破壊などを自分の問題として考え、主体的に判断し行動できるようにし、共存・協力を基礎とした持続可能な社会づくりを担う子供たちを育むのである

本年度も、「岡崎市環境学習プログラム」を活用し、よりよい授業づくりを目指す。

（三）岡崎の心の醸成

豊かな心の育成こそ、持続発展可能な資質の重要な部分であると考えている。その基礎の一つとなるのが、郷土に対する愛情である。郷土愛が基盤となり、国を愛する心が生まれ国際理解へと発展していくと考えている。

岡崎には、日本が誇るべき豊かな自然と家康に代表される歴史がある。そこで、岡崎に関わる人・もの・ことを教材や題材として学習し、岡崎への愛着や誇りといった思いを高め、その学びから岡崎の心の醸成を図る。これまでも、社会科で徳川家康などの郷土の先人について学んだり、岡崎の心の歌「夢三部作」（「夢ふくらませ」「夢受け継いで」「夢おどる」）を歌ったり踊ったりしてきた。

本年度は、道徳部が作成した自作資料「夢をつむいだ人々」（各学年一題材）を有効に活用し、岡崎の心の醸成を積極的に図っていく。

（四）全教科領域で取り組むＥＳＤ

持続発展可能な資質・能力の重要な部分が、各教科・領域で育む見方・考え方である。したがって、ＥＳＤは全教科・領域で実施すべきである。

昨年度、授業改善委員会が中心となって、全校がＥＳＤカレンダーを作成した。各学校で持続発展可能な資質・能力を焦点化し、各教科・領域で洗い出し、学習する時期を明記したものがＥＳＤカレンダーである。

本年度は、昨年度作成したＥＳＤカレンダーを確実に実施し、持続発展可能な資質・能力の育成に取り組む。

ＥＳＤのベクトルが各学校の授業レベルでそろい、岡崎市全体に広がるとき、岡崎の子供たちは、将来、必ずや世界で活躍するに違いないと信じている。

● 教育関係機関だより

○岡崎市総合学習センター

受付　☎五四―一一一五

事務室☎八三―七七七〇

岡崎市総合学習センターは、平成二十三年八月にオープンした。一般も利用可能な大ホール、第1・第2会議室、和室、小ホールと、教育研究専用施設の教育研究室1～4、教材開発室1・2、教育図書室がある。

本センターは、社会教育も含め、岡崎市の教育に関わる活動の中心として広く利用されている。特に教育図書室は学芸会脚本を集約していたり、授業指導案のデータをコンピュータで検索できたりするなど、現場の先生方に役立つ情報が充実している。

今年度も教員の資質向上のために、教育活動を支える場所になるようにしていく。

○教育相談センター

☎七一―三二〇一

就学や不登校等の教育相談機関「そよかぜ相談室」と不登校児童生徒の適応指導教室「ハートピア岡崎」を合わせて開所し、四年目となった。

年々増加している相談数と通所数に対応するため、教育相談コーディネーターが個々の子供の状況やニーズに応じて支援方法を提案している。

◇「そよかぜ相談室」

主な相談内容は、不登校、就学、特別支援教育である。相談をしたい方が電話で予約して来所し、臨床心理士や相談員と相談を行う。また、発達障がいについての専門家が巡回相談を実施している。

◇「ハートピア岡崎」

学校への復帰を目指し、子供がハートピアへ通所し、指導員やハートピア専属の臨床心理士による指導を受けている。また、通所できない子供には、学校からの要請に応じて、登校支援員が家庭訪問をするなどして、登校の支援、相談等を行っている。

○少年自然の家

☎二三―〇四一六

少年自然の家は、昭和五十二年の開所以来、豊かな自然の中で、野外活動・集団宿泊生活・自然探求等の体験活動を通じて、心身ともに健全な青少年の育成を図ることを目的とした教育施設となっている。

昨年度も、市内の小中学校が山の学習やオリエンテーション合宿などで利用しただけでなく、ネイチャークラブ等の主催行事も行った。また、教職員の宿泊訓練、指導者研修に使われ、市内外の諸団体もたくさん活用している。

ターザンロープの取り替え、遊歩道の整備等もされ、今年度も、楽しく充実した活動が行われる。

● 表　彰

◆第49回全国児童才能開発コンテスト

作文部門

全国都道府県教育長協議会会長賞

大樹寺小一年　足立　萌香

大樹寺小二年　伊藤暖明人

六ツ美北部小四年　槙野　大心

全国連合小学校長会会長賞

矢作南小二年　都築　暖人

◆二〇一二年度キッド・ウィットネス・ニュース日本ビデオコンテスト（全国）

共感賞　葵中学校

◆第41回ＪＡ共済全国小・中学生交通安全ポスターコンクール

ＪＡ共済連会長賞

六ツ美西部小五年　石川　里南

◆第24回読書感想画中央コンクール

小学校低学年の部

奨励賞

常磐小二年　日野　太地

小学校高学年の部

奨励賞

上地小五年　柳澤ありす

◆第58回青少年読書感想文全国コンクール

入選

葵中三年　八巻　美穂

◆第11回全国こども科学映像祭

小学生部門

文部科学大臣賞

大樹寺小五年　内田　悠雅

中学生部門

佳作

竜海中一年　杉山　杏那

◆第2回デジタルえほんアワード（全国）

作品賞

竜海中二年　宇野　侑佑

◆第4回Make a CHANGE Day（全国）

ヤフーボランティア賞

北中学校

◆第40回愛知県人権を理解する作品コンクール

ポスターの部

入選

甲山中一年　陽田　詩織

書道の部

佳作

梅園小三年　北岡　沙彩

緑丘小四年　吉田　多映

男川小六年　山田　梨乃

標語の部

最優秀賞

上地小二年　柘植　蓮水

小豆坂小六年　渡辺　琳水
優秀賞
北野小六年　稲垣　未来
入選
上地小五年　笹竹　綾音
美川中一年　原田穂乃里
佳作
矢作東小一年　細井　花
細川小二年　城戸　洸太
矢作北小四年　野橋　美晴
常磐小六年　有田　伊吹
連尺小六年　兵藤梨歩夏
美川中一年　飯田　紗綺
甲山中二年　渡邉　太介

◆第34回愛知県特別支援教育振興大会
教育功労者顕彰
東海中学校

◆第35回愛知県体力づくり優良校
岡崎小学校

◆第7回愛知県U14クラブチャンピオンシップ男子バレーボール大会
第二位　岡崎市選抜A

●期待の新任教員

平成二十五年度岡崎市小中学校新規採用教員は、七十四名（事務職員を含む）である。なお、新任教員の配置は次のとおりである。

○小学校
梅園小　市川　友美
花岡　紗耶
飯塚みのり
浅岡　哲平
梅村保奈美
谷本今日子
猪飼美穂子
島　佑輔
荻野由布子
原田　恵子
平川　愛
近藤　織江
野田　梨紗
鶴園　遼雅
松野恵理奈
神野　麻紀
松崎　美紗
信松かんな
柴田　真衣
小柳　直希
石原さつき
長江　信子
原田　庸平
加藤　雅代
藤崎　祐介
荒井奈穂子
本宿小　本多　葵
生平小　城南小
常磐小　西川　麻里
奥殿小　中村　研
細川小　石田　菜月
岩津小　橋本　椋太
岩崎久美子
勝部　信帆
山本奈都美
森　勇輔
浅沼　玖美
関　ゆき子
大竹紗弥加
藤田　欣子
鈴木龍之介
林　知世
河本　祐佳
桂　千草
岡田　淳也
内田　麻菜
内田香保里
田中友二郎
柴田　翔平
鷹巣　哲司
宇都宮　慎
山本　浩司
中山美奈子
伊藤　左織
樅山　綾乃
本多　葵
西川　麻里
中村　研
石田　菜月
橋本　椋太
岩崎久美子
勝部　信帆
山本奈都美
森　勇輔
浅沼　玖美
関　ゆき子
大竹紗弥加
藤田　欣子
鈴木龍之介
林　知世
河本　祐佳
桂　千草
岡田　淳也
大門小　矢作東小
矢作北小
矢作西小
矢作南小
六ツ美北部小
六ツ美南部小
城南小
上地小
小豆坂小
北野小
六ツ美西部小
豊富小
宮崎小

○中学校
甲山中
美川中
竜海中
葵中
福岡中
常磐中　加藤　崇夫
磯谷　香奈
藤野　智世
粟生　裕輝
小幡　真夕
永田　祥晃
杉村　充哉
稲垣　綾子
中野　仁恵
谷川　大介
高井　悠乃
坊田　千里
新美友紀乃
鈴木美由紀
太田菜々美
天野眞理子
岩津中
矢作中
矢作北中
新香山中
竜南中
北中
六ツ美北中
翔南中

●期待の新任事務職員

新任事務職員の配置は次のとおりである。
竜美丘小　近藤　祐介
井田小　梅村　有佑
葵中　田村　佳奈
北中　東海　文香

●平成二十五年岡教組執行委員

執行委員長　河合　正浩
執行副委員長　神谷　敦仁
書記長　寺澤　益実
書記次長　廣瀬　浩司
組織部長　小山　岳彦
情宣部長　八木　規之
教文部長　小田　幸子
福対部長　増野　隆
調査部長　白川　真理
会計委員　加藤　良彦
青年部長　髙橋　遼
女性部長　小芦由美子

●平成二十五年度愛教組執行委員・常任

執行委員　青木　貴之
青年部常任　實松　勇太
女性部常任　蒲野　由紀

●「月報」岡崎の教育の回覧

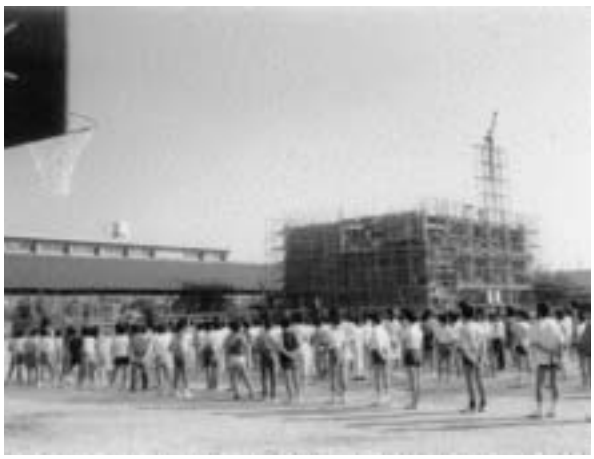
平成二十三年度より行っている学区への回覧を今年度も行う。今年度は年二回、四月号、十月号の回覧を行う。

他の月のものは、岡崎市のホームページの「組織別メニュー」「教育委員会」「岡崎市教育ネットワークOKリンク」「各種発行物」のページから閲覧することができる。

校舎の増改築

（昭和53年）

写真提供：六ツ美北部小学校



右の写真は、昭和五十三年の特別教室棟の工事中の様子である。

日本では、昭和四十六年ころから第二次ベビーブームが始まった。岡崎市も例外ではなく、各小中学校では教室不足の問題が起き、昭和五十四年までに、市内三十二校で校舎等の新設・増設が行われた。六ツ美北部地区も急激な人口増加に伴い、校舎が増築されることになった。

四月、翔南中学校が開校。南中学校の過大規模が解消された。現在、岡崎市内で教室不足等のためにプレハブ校舎（エアコン付）が設置されているのは、五校程度である。

子供にとってより安全で学びやすい環境を求めて、校舎の改修や増改築が進められている。

・題　字　教育長　髙橋　淳
・タイトルバック　矢作北中　山田　泉
・カット　葵中　伊東理沙

オアシス

同じ時間に同じ場所で、一つの物語を共有する。腕白坊主も引っ込み思案も本の虫も、みんな一緒に聞く喜び。それが担任の先生による読み聞かせなら喜びは倍増するそうだ。自信はないけどやってみようか。鎰廣さんによれば、先生が読んだり勧めたりする本には魔法がかかり、子供が夢中になるそうだから。

新学習指導要領が完全実施となり、さらに岡崎市では「環境教育」「英語教育」「岡崎の心の醸成」が実践されている。内容が改訂になっても、学校教育に求められているものは「現代を生き抜く力」であり、変わることはない。

四月、新しく出会う子供たちにどんな力を付ければよいか。挑戦の一年が始まる。

新しい年になって気持ちを入れ替える。新しい年度になってさらに、気持ちを入れ替える。

四月最初に子供たちと校門や教室で出会うとき、どんな顔をすべきか想像する。「緊張」の顔か、「笑顔」の顔か、二つで悩む。今年度は、二つを合わせた、「微笑」の顔で子供たちを迎えたい。

澄み切った早朝の空気の中、見上げる奥山田のしだれ桜。

花一輪一輪が生き生きと咲くからこそ、この全体の美しさとなる。新たに歩み出した、学年、学級。かくありたいと願う。

＊新幹線お掃除の天使たち　遠藤　功
あさ出版　¥1,470

この一文

「もっとよくなるはずだ」「もっといろいろなことができるはずだ」と現場が信じ，現場の目線で知恵やアイデアを生み出し，自分たちが率先して実行に移す。これが，「現場力」だ。

かつて，新幹線東京駅で，ピンクの作業服に身を包んだ女性が車内の整備をする姿に感動したことがある。彼女たちは，乗客が降りるや否や一礼をし，７分間で車内のありとあらゆる清掃を終える。てきぱきとした「プロの仕事ぶり」と「礼儀正しさ」，その姿が人の心を揺さぶる。利用客や仲間との間で紡ぎ出される，心温まるストーリーに思わず目頭が熱くなる本である。

＊小中学校でリーダーを育てる　加納　玲子
ＭＯＫＵ選書　¥1,500

＊参謀　森　繁和
講談社　¥1,470

＊いじめの構造を破壊せよ　向山　洋一
明治図書出版　¥1,008

〔北野小　荻野　卓寛〕